

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 1Fせせらぎ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで穏やかな住宅街の中にあり、落ち着いた環境の下、地域との関わりや交流を深めつつ、ホーム内では、家庭的な雰囲気とふれあいを大事にし、入居者様には一人一人の気持ちや想いを尊重し、毎日安心して穏やかにゆったりとお過ごし頂けるよう日々のケアにあたっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム とみおか」は、JR駅から徒歩10分以内の交通便がよい住宅地にある2ユニットの事業所である。近くにある保育園児の声や近所の子供たちの遊び声が暮らしの音として聞こえる静かな環境で利用者は穏やかに過ごしている。管理者は町内会の総会や花壇整備に参加して地域との関係づくりを積極的に進め、生協訪問販売への住民要望に協力し、事業所の駐車場を提供している。週1回の販売で利用者もお菓子を買い住民と会話を交わしている。開設時に入居した利用者も徐々に重度化し外出が困難になる中で、事業所内で地域住民と交流する機会に力を入れている。お祭りには町内会役員や家族の参加を得て屋台で食事を楽しんだり、職員が踊りを披露するなど手作りの温かな交流になっている。ボランティアの来訪でバンド演奏もある。2年半前に交代した管理者は現場の体験を活かし、リーダーや職員と常に話し合いながら利用者の暮らしを支えている。前回の課題も真摯に取り組み、ほぼ達成している。法人研修や勉強会で職員は学びを深め、定着率も高い。担当職員のモニタリングを基に介護計画を作成し、日々個別の意向に沿って温かな姿勢でケアを行っている。畑の収穫物でおやつ作りを一緒に作り、ケーキバイキングを企画して利用者と共に楽しむ機会を積極的に作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニット内と玄関に提示。理念に基づいたケアを原点に考え、常に意識しながら入居者様に関わるように心掛けている。	理念の中に、地域社会でのふれあいを大切にするという文言があり、入社時に利用者に沿った支援を説明している。カンファレンスの際にも利用者の視点でケアが行われているか、気づきを促しながら職員間で話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾いや街路の花植え等の活動や総会に参加させて頂いている。又、週に一度ホーム内の駐車場を開放しコープの訪問販売車に提供しており、町内の皆様との交流の場としている。	介護度が重くなり、町内会の活動的な参加は難しくなっている。事業所夏祭りに町内会役員や家族の参加を得て、屋台で食事をしたり、職員の踊りを観て楽しんでいる。今後は近くにある保育園の運動会総練習などを見学したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議にて、状況報告や日常の御様子等の情報発信を行う事で、認知症を御理解して頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度に開催し、御家族、町内会、地域包括支援センターに参加して頂き、入居者様のサービス状況報告、意見や情報交換をし、サービスの向上が図れる様に努めている。	会議では防災、防犯、外部評価、感染症などをテーマに意見を交換している。家族の気になる点を次のテーマにあげて全家族に会議案内を送っている。会議に2~4名の家族参加があり、質疑応答が分かる詳細な議事録を全員に送っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市・手稲区の管理者会議に参加し、運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加して頂き、情報の共有に努めている。	書類提出時に市役所を訪問し、事例の対応について説明している。法人研修の一環として、法務局から講師を招き、事業所で人権擁護に関する研修を行い、成年後見制度の知識も学んでいる。ビデオの活用にもつなげて学びを深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や会議等の他、常に職員間で話し合い、情報を共有し、身体拘束の種類・範囲等の「具体的な行為」の理解を深め、ケアの実践に活かしている。	法人研修などで身体拘束禁止について学び、拘束をしないケアを行っている。リーダーを中心に会議で具体的なケアの方法を話し合い、身体拘束禁止行為(11項目)についても理解を深めている。日々言葉遣いにも注意し、言い換える工夫で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や会議等を通じて、理解を深め、日頃の業務の中で見過ごさない様に常に職員間で話し合い、お互いに注意を払い、防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用されている方がおられない為、理解している職員が少なく、必要性について学ぶ機会がないのが現状。今後取り組んでいこう検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御相談時にはパンフレットに基づき説明し、御契約時には重要事項説明書にて十分な説明をさせて頂き、理解・納得の上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置すると共に、御家族様が来訪時には、日頃の御様子をお伝えし、御意見等を伺えるように努めております。頂いた御意見等は職員間で共有しています。	来訪頻度が少ない家族に電話や手紙で意向を確認し、来訪時には報告の中で意見や介護計画の意向も聞いている。意見などは個別の「御家族様連絡表」に記載しているが、今後は些細な想いも追記して把握したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議等、常日頃より職員の声に耳を傾け、意見や提案を取り入れ、運営に反映できるよう努めている。	ユニット会議でケアの対応や業務の流れについて活発に意見を交換している。管理者は職員の状況を見ながら個別面談を行い、両ユニットのリーダーとも頻繁に意見を交換して働きやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給や勤続年数の節目ごとに表彰等、職場環境に努めており、状況に応じて意見交換を行い、向上心を持って、やりがいのある職場作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修に参加しており、社内研修においては、職種、階級、目的別に行い、個々に合ったスキルアップに繋がるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会に参加し、交流する機会があり、情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学時の段階で、不安な事や困っている事、希望している事に耳を傾け、入居後も同様にに関わり、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時に不安や困っている事、要望等を確認し、入居後も同様に耳を傾け、日常の細かな変化や御様子を報告する事で信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族の意向を確認、把握し、どんな支援が出来るのかを見極め、必要としているサービスを実施出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の「出来る事」を見極め、お手伝いやレクリエーションを通し、役割とし、やりがいを持って自主的に行えるように声掛けし、見守り、時に御一緒に行う事でお互いの関係性が築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時に日々の暮らしの御様子や変化や気付き等の近況をお伝えし、御要望、御相談があれば取り入れ、御本人を支えて行ける関係を築けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族同様に友人、知人への御来訪やお手紙、電話での対応を支援し、関係が途切れないように努めています。	昔からの友人が来訪し居室で交流を温めている。電話や手紙で連絡をしている方もいる。家族の支援でお墓参り、外食、結婚式などに参加している。車の好きだった方には受診の際にドライブを楽しめるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性や生活スタイルを把握し、職員が入居様同士の調整役となって、関わり支え合えるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況や近況をお伺いし、必要とされる情報を提供する等、出来る限りのフォローや支援を行えるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動や表情等、日々の生活の関わりの中で、思いや希望を汲み取れるように心掛けています。また、御家族にも御協力頂き、出来る限り御本人本位に検討するように努めています。	8割は会話が可能で、難しい時は表情などで意向を把握している。ユニット共通にセンター方式アセスメント表を使用し、1年ごとに更新している。今後は本人の暮らしや趣味嗜好のシートを活用し、変化なども追記して更新したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活スタイルや生活歴、または御本人、御家族からの情報等、支援に必要な情報を把握し、職員間で共有出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で変化が見られた時は、申し送りや介護記録等にて、職員間で状況・状態を把握し、共有できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況の中で御本人の意向を認識し、職員間で観察して、意見を出し合い、御本人にとって必要とされるケアプランを作成している。	利用者担当職員のモニタリングを基にカンファレンスで評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は課題に沿って、実施内容が主になっている。今後は短期目標に沿って支援内容の変化も分かり易く記載したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや連絡ノートにて職員が情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、要望や状況によって柔軟な支援を行えるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域包括支援センター等の協力を得ながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診医が来られ診て頂いており、その他に必要な通院にも対応している。入居前のかかりつけ医を受診されている入居者様もおられます。	協力医療機関の内科医の訪問診療を受けている。かかりつけ医や専門的な他科受診時は事業所でも対応し、家族が同行する時は健康情報を渡している。受診記録は「病院受診記録」を基に、日付を追って各詳細な記録に辿れるように考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化を報告し意見を頂いたり、日常の健康管理や医療活用の支援を行っており、特変時には24時間体制で主治医と連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を密に行い、入院中も訪問し確認を行い、早期退院できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期についての説明を行っています。又、そういう状況が懸念される場合は、御本人、御家族、主治医と方針や意向について話し合い、意思確認を行い一緒に検討し支援していけるように心掛けています。	重度化への対応指針に看取りの考えを明記し、常時医療行為が必要な場合は、対応が難しいことも説明して同意を得ている。重度化から状態が変わった時には関係者で方針を確認し、可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを職員で把握に努めている。応急手当や初期対応に関して、定期的研修等を行いながら対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した火災による避難訓練を実施しており、全職員が避難誘導員になれるように心掛けています。また、運営推進会議を通じて地域の方々への参加を呼び掛けています。	12月中に夜間想定火災避難訓練を消防署と町内会役員の協力を得て行う予定である。住民には誘導後の見守りを依頼している。今後法人と検討し、全職員の救急救命訓練の受講を考えている。	地震災害マニュアルに沿って勉強会を行い、事業所内の危険箇所の確認や各ケア場面での対応について話し合うことをも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを意識し、入居者様一人ひとりの誇りと尊厳を損なわれないように配慮しながら努めています。	法人内で尊重した言葉遣いを研修し、利用者にとって感じのよい対応をすることを徹底している。記録類も目につかない場所に保管してある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で御本人の希望や意思に耳を傾け、出来る限り希望に沿える支援が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースやリズムを大切にし、望まれる事を汲み取り、希望に沿った支援が出来るように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容に来て頂いたり、御本人の好みや希望を聞き取り、お化粧品やアクセサリを身に着けたりと、楽しんでおしゃれが出来るように支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をし食事での会話を楽しむ雰囲気作りを心掛けております。食後の食器洗いや食器拭きのお手伝いは毎食後に必ず行っており、入居者様同士が会話を楽しまれながら、片づけをされています。	法人から献立と食材が搬入されるが、行事で寿司の出前や事業所の畑の収穫物を食材にして楽しめる機会がある。年に数回ケーキバイキングで好きなものを選ぶ機会や、お汁粉など協力して作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は当社の専任の管理栄養士が作成しています。食事量、水分量は水分表等で管理、把握し必要に応じて対応できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行い、義歯は毎夜職員が洗浄を行っている。又、毎週1回訪問歯科の往診を受けており、個々の口腔ケアのアドバイスを頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄時間を記録し、排泄の間隔や状況に応じて声掛け、誘導を行い排泄の失敗を防ぐ事が出来るように支援しています。	排尿排泄記録に回数と状態を記録し、日中はトイレで排泄するよう個別に誘導をしている。夜間はベッド上で交換している利用者もいるが、できるだけトイレに行くことが出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄出来るように運動や水分量の把握を取り組んでいる。下剤調整や状況に応じた排便のコントロールは主治医指示の下、適切に使用し対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を週2回以上して頂けるように支援しており、当日の健康状態や気分をお伺いし、入浴を拒否される入居者様には無理強いせず、声掛けを工夫したり、日にちを変更する等、ご希望やタイミングに合わせて支援しています。	一人週2回の入浴では、肌に優しい入浴剤で気分よく職員と会話しながら湯船に浸かり楽しい時間を過ごしている。湯船に入るのを嫌がる利用者には掛け湯しながらシャワー浴で対応するなど、本人の希望を優先している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活パターンやリズムを把握し、夜間の不眠に繋がらないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも閲覧出来るようにファイリングしており、薬の変更があった場合は申し送りや連絡ノートで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの出来る力に合わせた家事やお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝える事で意欲の向上や自信に繋げている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の体調や希望に考慮しながら、近くの公園や散歩、ホームの駐車場でのお茶会等を行っている。又、御家族の御協力でお墓詣りや花見等の個別の支援にも対応している。	駐車場へのスロープで車椅子利用でも日々散歩ができ、近くの河川敷に出かけている。駐車場のガーデンチェアやベランダでお茶会をしながら外気を浴びている。ドライブで軽川に花見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者が金銭管理をすることはしていないが、外出時や買い物時に実際お金を持ちながら、御本人に金銭の関わりをお願いする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に沿えるように、電話を掛ける際には制限せずに使用して頂いています。御家族に電話をする事によって御安心される事も有る為、可能な限り支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じとれる装飾等を入居者様と御一緒に作成し、飾り付けも御一緒に行う等、入居者様や御家族様も楽しんで頂ける様にしています。又、ホールや部屋全体の様子を見渡せる造りになっており、調理の音や掃除機の音等、生活感を常に感じられるよう努めています。	広く綺麗に清掃された居間に利用者が集い、好みの場所に腰をかけ職員と昔話や思い出話をしている笑い声が聞こえる。床暖で暖かく、壁には写真や利用者の作品が飾られ、心地よく快適に過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心してお過ごし頂けるスペースを確保しつつも、そこで孤立してしまわない様に工夫しながら支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居時に生活歴や御本人の大切な生活用品や、馴染みのある物を御持参して頂き、落ち着いて安心した生活が送れるよう御家族にも御協力して頂き、御本人が快適に過ごせるような工夫をするように努めています。	自分の部屋らしく個性が出せるよう、使い慣れた物を持ち込んでいる。テレビや大きな仏壇、家族の集合写真やアルバムなど好きなものに囲まれて安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時は建物随所に設置されている手摺の使用や、居室内の家具や物の配置を見直したり、出来る事への支援を行い、各居室がオープンスペースとなっている為、入居者様も解り易い環境化で過ごされています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 2Fそよかぜ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで穏やかな住宅街の中にあり、落ち着いた環境の下、地域との関わりや交流を深めつつ、ホーム内では、家庭的な雰囲気とふれあいを大事にし、入居者様には一人一人の気持ちや想いを尊重し、毎日安心して穏やかにゆったりとお過ごし頂けるよう日々のケアにあたっております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニット内と玄関に提示。理念に基づいたケアを原点に考え、常に意識しながら入居者様に関わるように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾いや街路の花植え等の活動や総会に参加させて頂いている。又、週に一度ホーム内の駐車場を開放しコープの訪問販売車に提供しており、町内の皆様との交流の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議にて、状況報告や日常の御様子等の情報発信を行う事で、認知症を御理解して頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、御家族、町内会、地域包括支援センターに参加して頂き、入居者様のサービス状況報告、意見や情報交換をし、サービスの向上が図れる様に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市・手稲区の管理者会議に参加し、運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加して頂き、情報の共有に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や会議等の他、常に職員間で話し合い、情報を共有し、身体拘束の種類・範囲等の「具体的な行為」の理解を深め、ケアの実践に活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や会議等を通じて、理解を深め、日頃の業務の中で見過ごさない様に常に職員間で話し合い、お互いに注意を払い、防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用されている方がおられない為、理解している職員が少なく、必要性について学ぶ機会がないのが現状。今後取り組んでいこう検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御相談時にはパンフレットに基づき説明し、御契約時には重要事項説明書にて十分な説明をさせて頂き、理解・納得の上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置すると共に、御家族様が来訪時には、日頃の御様子をお伝えし、御意見等を伺えるように努めております。頂いた御意見等は職員間で共有しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議等、常日頃より職員の声に耳を傾け、意見や提案を取り入れ、運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給や勤続年数の節目ごとに表彰等、職場環境に努めており、状況に応じて意見交換を行い、向上心を持って、やりがいのある職場作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修に参加しており、社内研修においては、職種、階級、目的別に行い、個々に合ったスキルアップに繋がるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会に参加し、交流する機会があり、情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学時の段階で、不安な事や困っている事、希望している事に耳を傾け、入居後も同様にに関わり、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時に不安や困っている事、要望等を確認し、入居後も同様に耳を傾け、日常の細かな変化や御様子を報告する事で信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族の意向を確認、把握し、どんな支援が出来るのかを見極め、必要としているサービスを実施出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の「出来る事」を見極め、お手伝いやレクリエーションを通し、役割とし、やりがいを持って自主的に行えるように声掛けし、見守り、時に御一緒に行う事でお互いの関係性が築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時に日々の暮らしの御様子や変化や気付き等の近況をお伝えし、御要望、御相談があれば取り入れ、御本人を支えて行ける関係を築けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族同様に友人、知人への御来訪やお手紙、電話での対応を支援し、関係が途切れないように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性や生活スタイルを把握し、職員が入居様同士の調整役となって、関わり支え合えるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況や近況をお伺いし、必要とされる情報を提供する等、出来る限りのフォローや支援を行えるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の言動や表情等、日々の生活の関わりの中で、思いや希望を汲み取れるように心掛けています。また、御家族にも御協力頂き、出来る限り御本人本位に検討するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活スタイルや生活歴、または御本人、御家族からの情報等、支援に必要な情報を把握し、職員間で共有出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で変化が見られた時は、申し送りや介護記録等にて、職員間で状況・状態を把握し、共有できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況の中で御本人の意向を認識し、職員間で観察して、意見を出し合い、御本人にとって必要とされるケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや連絡ノートにて職員が情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、要望や状況によって柔軟な支援を行えるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域包括支援センター等の協力を得ながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診医が来られ診て頂いており、その他に必要な通院にも対応している。入居前のかかりつけ医を受診されている入居者様もおられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化を報告し意見を頂いたり、日常の健康管理や医療活用の支援を行っており、特変時には24時間体制で主治医と連絡をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を密に行い、入院中も訪問し確認を行い、早期退院できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期についての説明を行っています。又、そういう状況が懸念される場合は、御本人、御家族、主治医と方針や意向について話し合い、意思確認を行い一緒に検討し支援していくように心掛けています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを職員で把握に努めている。応急手当や初期対応に関して、定期的研修等を行いながら対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した火災による避難訓練を実施しており、全職員が避難誘導員になれるように心掛けています。また、運営推進会議を通じて地域の方々への参加を呼び掛けています。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを意識し、入居者様一人ひとりの誇りと尊厳を損なわれないように配慮しながら努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で御本人の希望や意思に耳を傾け、出来る限り希望に沿える支援が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースやリズムを大切にし、望まれる事を汲み取り、希望に沿った支援が出来るように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容に来て頂いたり、御本人の好みや希望を聞き取り、お化粧品やアクセサリーを身に付けてたりと、楽しんでおしゃれが出来るように支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をし食事中的の会話を楽しむ雰囲気作りを心掛けております。食後の食器洗いや食器拭きのお手伝いは毎食後に必ず行っており、入居者様同士が会話を楽しまれながら、片づけをされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は当社の専任の管理栄養士が作成しています。食事量、水分量は水分表等で管理、把握し必要に応じて対応できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行い、義歯は毎夜職員が洗浄を行っている。又、毎週1回訪問歯科の往診を受けており、個々の口腔ケアのアドバイスを頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄時間を記録し、排泄の間隔や状況に応じて声掛け、誘導を行い排泄の失敗を防ぐ事が出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄出来るように運動や水分量の把握を取り組んでいる。下剤調整や状況に応じた排便のコントロールは主治医指示の下、適切に使用し対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を週2回以上して頂けるように支援しており、当日の健康状態や気分をお伺いし、入浴を拒否される入居者様には無理強いせず、声掛けを工夫したり、日にちを変更する等、ご希望やタイミングに合わせて支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活パターンやリズムを把握し、夜間の不眠に繋がらないよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも閲覧出来るようにファイリングしており、薬の変更があった場合は申し送りや連絡ノートで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの出来る力に合わせた家事やお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝える事で意欲の向上や自信に繋げている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の体調や希望に考慮しながら、近くの公園や散歩、ホームの駐車場でのお茶会等を行っている。又、御家族の御協力でお墓詣りや花見等の個別の支援にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居様が金銭管理をすることはしていないが、外出時や買い物時に実際お金を持ちながら、御本人に金銭の関わりをお願いする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に沿えるように、電話を掛ける際には制限せずに使用して頂いています。御家族に電話をする事によって御安心される事も有る為、可能な限り支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じとれる装飾等を入居様と御一緒に作成し、飾り付けも御一緒に行う等、入居様や御家族様も楽しんで頂ける様にしています。又、ホールや部屋全体の様子を見渡せる造りになっており、調理の音や掃除機の音等、生活感を常に感じられるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心してお過ごし頂けるスペースを確保しつつも、そこで孤立してしまわない様に工夫しながら支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居時に生活歴や御本人の大切な生活用品や、馴染みのある物を御持参して頂き、落ち着いて安心した生活が送れるよう御家族にも御協力して頂き、御本人が快適に過ごせるような工夫をするように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時は建物随所に設置されている手摺の使用や、居室内の家具や物の配置を見直したり、出来る事への支援を行い、各居室がオープンスペースとなっている為、入居様も解り易い環境化で過ごされています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームとみおか

作成日：平成 30年 1月 6日

市町村受理日：平成 30年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震災害マニュアルに沿って勉強会を行い、事業所内の危険箇所の確認や各ケア場面での対応について話し合うことができていない。	地震災害マニュアルに沿った勉強会等を行い、事業所内での危険箇所の確認や各ケア場面での対応について話し合いを行う。	毎月各ユニットごとに行っているケアカンファレンス会議時、又はその前後の時間を使い、地震災害マニュアルに沿った勉強会を開催し、全職員と事業所内での危険箇所の確認や各ケア場面での対応について話し合い周知していくように努める。	3カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。